

## 論文審査結果の要旨

氏名 劉雲剛

中国国内の豊富な鉍産資源を基礎として発展してきた鉍業都市は、戦後中国において大きな役割を果たしてきた。しかし、近年の改革開放経済の浸透にともなって、国有鉍業企業は深刻な経営不振に陥っており、それを経済基盤とする鉍業都市の問題地域化が進行している。本研究は、中国鉍業都市の全般的な都市成長および産業動向を各種統計データを用いて分析するとともに、中国東北部の炭鉍都市である遼源市を事例に、鉍業都市の産業停滞、失業問題、環境問題の発生過程とそれにとまなう生活空間の変容の実態を把握しようとしたものである。

本論文は7章から構成されている。

第1章では、研究の背景と既存研究から導かれた課題を整理し、本研究の論点を提示するとともに、研究対象地域を概観した。第2章では、中国鉍業都市の形成史、地理的分布、および全般的な都市成長の動向を整理した。近代中国において、鉍業都市は重要な産業都市である一方、近年に至って、産業停滞、失業・貧困、資源・環境問題が深刻化している典型的な「問題都市」でもある、という二面性が指摘されている。

第3章では、中国都市における産業動向と社会変化の関係を具体的に分析するための準備として、中国における「単位」制度の仕組みを整理した。さらに、近年の単位制度改革が地域社会に及ぼす影響を予察的に検討し、本研究独自の視点を提示した。

第4章から第6章では、個別の中国鉍業都市の例として遼源市に注目し、現地調査にもとづいて、産業動向と社会変容との関係、環境問題の発生、およびそれらにとまなう都市空間の変容の実態を分析している。まず第4章では、鉍業都市の産業多角化の展開とその後の産業停滞の過程を統計データから追跡し、単位制度がいかに鉍業都市の産業成長・停滞に関わっていたのかを分析した。鉍業都市では、見かけ上、多角的な産業体系が形成されているが、それらの企業群は、中央各省庁や地方政府に所属する国有企業と、余剰人員の受け皿としての集体企業からなっており、独立した資本や技術を実質上持っていないことを明らかにした。

第5章では、鉍業都市の産業停滞にとまなう失業・貧困問題を背景とした生活空間の変容を扱っている。鉍業都市では深刻な失業問題が発生する一方、貧困層が居住する鉍山地区と富裕層が集中する新市街地区、という生活空間の二極構造が形成されつつあることを実証した。さらに、そうした二極構造の背景には、失業・貧困者が他市へ転出せずに市内に滞留しつづける現象が存在するが、それには単位制度が深く関わっていることを指摘した。

第6章では、遼源市の地盤沈下問題を取り上げ、鉍業都市における環境問題発生地の局地的という現象を論じた。中国においては、地盤沈下のように局地的に発生する環境問題についての社会的な認識が薄く、単位制度の基盤が揺らぐ中で、十分な対策がとられないまま深刻化しつつあることが指摘されている。

第7章では、以上の分析で得られた知見を整理した上で、中国鉍業都市における貧困・環

境問題，さらには都市空間形成に対する単位制度の影響についてのより詳細な検討が今後の課題であるとしている．

以上のように，本研究は，中国鉱業都市における産業停滞と社会変容，および環境問題の深刻化の実態を，広範な資料収集と綿密な現地調査にもとづいて把握し，さらにそれらの問題を単位制度という中国独特の社会制度との関わりにおいて分析したという点で独創的であり，中国都市研究に限らず，広く都市社会地理学に対する大きな学術的貢献が認められる．よって，本審査委員会は，本論文の提出者である 劉 雲剛 は博士(学術)の学位を授与される資格があるものと認める．